

イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年3月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、週末2/3のWTI原油は、先週比6.29ドル安の73.39ドルとなりました。1月の雇用統計(季節調整済み)によると、失業率は3.4%と1969年5月以来、約5年8カ月ぶりの低水準となった。景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数は前月から51万7000人増加し、市場予想を大きく上回って労働市場の堅調さを示す内容となった。この結果を受けて、改めて利上げ長期化への懸念が再浮上、景気に悪影響が及べばエネルギー需要の減退につながるなどの警戒感から売りが強まった。また、雇用統計発表後に対ユーロでドルが上昇したこともドル建て商品の原油の割高感を強めた。

●第2週、週末2/10のWTI原油は、先週比6.33高の79.72ドルとなりました。ロイター通信は、ロシアのノバク副首相が10日、3月に原油生産を日量50万バレル減らすと表明したと報道。西側諸国がロシア産の原油や石油製品の価格に上限を設けたことへの対抗措置だという。これを受け、需給引き締め観測が再び台頭し、原油が買い進まれた。ただ、中国の弱い需要や米景気減速への警戒感も依然として強く、上値では売りも出た。

●第3週、週末2/17のWTI原油は、先週比3.38ドル安の76.34ドルとなりました。今週発表された米経済指標がインフレ圧力の根強さや労働市場の堅調さを改めて示す内容だったことを受け、FRBの複数の高官は利上げ継続に積極的な姿勢を改めて示した。グリーンランド連邦準備銀行のメスター総裁は16日、米経済の動向次第では利上げ幅を0.25%から再び拡大する可能性があることを表明。セントルイス連銀のブラード総裁も0.5%の利上げ実施の可能性に対して、「排除しない」と述べた。市場では利上げ長期化で金利が一段と上昇すれば、ドル高基調が強まるとの警戒感が台頭している。ドルが主要通貨に対して上伸すれば、ドル建て商品である原油の割高感が意識され、売りにつながりやすい。また、3月からの減産方針を示しているロシアで、原油輸出が依然として現行の水準を維持していると報じられたことや、米エネルギー情報局(EIA)が発表した原油在庫が予想を大きく上回る積み増しとなったことも圧迫要因。相場は一時75ドル割れを試す場面もあった。

●第4週、週末2/24のWTI原油は、先週比0.02ドル安の76.32ドルとなりました。ロイター通信は、ロシアが欧州連合(EU)などによる原油と石油製品輸出価格への上限設定措置に対抗し、ロシア西部の港からの3月の原油輸出を前月比で最大25%削減する計画だと報じた。ロシアは先に、日量50万バレルの減産も表明しており、供給不足への懸念が台頭した。下落基調が続いていた後を受けて安値拾いの買いも入りやすかった。一方、米エネルギー情報局(EIA)が発表した17日までの1週間の米石油在庫統計によると、戦略石油備蓄(SPR)を除く原油の在庫は、前週比760万バレル増の4億7900万バレル。市場予想(210万バレル増=ロイター通信調べ)を大幅に上回る積み増しとなり、上値を削る場面もあった。

	2月平均	WTI原油	76.86ドル	前月比	▲1.30	為替 1ドル	133.75円	前月差	2.40円
--	------	-------	---------	-----	-------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
2/1~2/1	17.5	+2.5	+2.5
2/2~2/8	18.4	-1.0	-1.0
2/9~2/15	15.5	-2.5	-2.5
2/16~2/22	17.3	+2.5	+2.5
2/23~2/28	18.7	+1.5	+1.5

		0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格	
メニュー価格推移	2022年10-12月C重油決定価格	103,180	110,790	(103,180(メニュー)+7,610(プレミアム))
平水湾内T/S持ち届け(サイト60日)	2023年1-3月C重油決定価格	84,240	91,510	(84,240(メニュー)+7,270(プレミアム))
	2023年1-3月C重油決定価格			(メニュー) + (プレミアム))
	決定価格10-12月比			

		適合油価格	A重油
内航燃料油価格推移	2022年10-12月C重油決定価格	115,700	115,600
	2023年1-3月C重油決定価格	96,410	
	2023年1-3月C重油決定価格		
	決定価格10-12月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	23/1	9桁速報	73,234	88.14	132.09	-9,209
	23/2	最終予測	70,309	85.85	130.20	-2,925
	23/3	展望	68,562	87.20	125.00	-1,747
	23/4	展望	65,659	86.99	120.00	-2,903

【次世代エネルギー】(エネオス、水素の常温輸送を実現へ 25年度にも大型装置)

ENEOSホールディングス(HD)が水素を石油タンカーで常温輸送するための技術を開発し、2025年度にも実用化する。トルエンに水素を結合させた液体を製造する実証設備を2月に稼働。商用生産に向け、25年度にも装置を大型化する。川崎重工業は超低温で水素を輸送する大型運搬船の開発を進める。次世代エネルギーの本命とされる水素を巡り各社が安価で安全な輸送技術の確立を急ぐ。ENEOSHD傘下のENEOSは30日、水素とトルエンを結合させたメチルシクロヘキサン(MCH)を製造する実証プラントをオーストラリア東部ブリスベンで2月に稼働させると発表した。MCHの製造技術ではENEOSが世界で先行する。今回稼働する電解装置の能力は150キロワットと、これまで実験で使っていた装置の150倍の規模に相当するという。従来、MCHを製造するにはタンクに貯蔵した水素を合成装置でトルエンと結合させる必要があった。ENEOSが新たに開発した電解装置では水とトルエンをそれぞれ電気分解し、水素を結ぶことなく、MCHを製造できる。水素タンクや合成装置が不要で大幅にコストを削減できるとみる。また電気分解に太陽光発電由来の電気を使うことでMCHの製造過程では二酸化炭素(CO2)が発生せず、グリーン水素の供給が可能となる。ENEOSは今後、8カ月間の実証実験で電解装置の運転や制御技術を確認する。25年度をメドに5000キロワット級の大型電解装置を開発し、大量生産に乗り出す。生産量などは今後詰める。MCHは既存の石油タンカーで輸送でき、輸送コストも安価に抑えられるという。ENEOSは新手法を活用し、日本での販売価格を30年には水素1キログラムで330円程度と、21年時点での政府の試算に比べて3割以下に引き下げることを目指す。

出典①<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC257CF0V20C23A1000000/>

【3月価格変動要因】

●需要: 中国の経済活動再開の影響としてモビリティ中心に燃料需要は増加も製造業の需要が依然として弱い。一方、3月の全人代に向けて経済支援の期待は高く、年後半の需要回復期待は、依然として根強い。

●供給: OPECとロシアの減産方針に加え、米国の労働設備の逼迫、リグ稼働数の減少を考慮すると米国の製造増加も緩やかなものに留まる可能性が高く供給は、依然としてタイト。EUの禁輸措置は、特段混乱もなくパスしたが米国を中心にメンテナンスシーズン入りする中、精製能力も低下しやすくなるクラックは、拡大しやすい。

●在庫: EIA週間在庫統計原油在庫は、引き続き積み上がりの傾向が顕著。SPRの追加放出も予定されており、原油在庫には、一定の余剰が想定される。反面、ガソリン在庫は、直近週で取り崩しとなっており、5年レンジを下回る水準で推移。

●リスク資産: 2月の雇用統計が、市場予想を上回る結果となり金利上昇、ドル高が再燃。その後発表されたISM、EPIも強い結果となり、FRBの金融引き締めが長期化する警戒感からリスク資産は、全般上値が重くなり軟化した。

●テクニカル: プレントは、昨年12月に底打ち後、緩やかに上昇基調を続けているが、長期的なレジスタンスとして機能している100日移動平均線を明確に上抜けてきていない状況。

●地政学: 直近イスラエルとイランが緊張を高めていたが、イスラエルは26日、イランと近いパレスチナと3ヶ月から6ヶ月間の暴力激化抑制合意をしており一旦は沈静化の兆しも。

<3月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	90	83
Average	80	74
Low	70	60

日付	国	3月経済指標カレンダー	日付	国	3月経済指標カレンダー
1	米	2月ISM製造業景況指数	16	米	欧州中央銀行(ECB)政策金利
2	欧	2月消費者物価指数(HICP、速報値)	16	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
3	米	2月ISM非製造業景況指数	17	欧	2月消費者物価指数(HICP、改定値)
8	欧	10-12月期四半期域内総生産(GDP、確定値)	22	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
8	米	2月ADP雇用統計	22	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
10	米	2月失業率	23	米	2月新築住宅販売件数
10	米	2月非農業部門雇用者数変化	30	米	10-12月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
10	米	2月平均時給	31	欧	3月消費者物価指数(HICP、速報値)
14	米	2月消費者物価指数(CPI)	31	米	2月個人消費支出(PCEデフレーター)
15	米	2月小売売上高			